

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370882

研究課題名(和文)近代ユーラシア流通におけるロシア商人と茶貿易

研究課題名(英文)Russian merchants and tea trade in modern Eurasian market

研究代表者

森永 貴子 (Morinaga, Takako)

立命館大学・文学部・准教授

研究者番号：00466434

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：モスクワ、ペテルブルクの文書調査により、研究代表者はモスクワ最大の茶商家系であるボトキン家の帳簿を発見し、1830年代から1850年代の茶の流通構造を具体的に知ることができた。他の茶商人に関する帳簿や事業記録はほとんど残っていないが、モスクワ市の課税・保険史料など間接的な分析材料が存在することも明らかにした。以上の調査から、ロシア帝国の茶貿易従事者にはロシア商人だけでなくドイツ系・ユダヤ系・タタール系商人などの民族的・宗派的多様性があること、貿易仲介業者の国際性が判明した。またキャフタ茶貿易委員会記録から工場主と茶貿易業者の利益が共通し、露清貿易における輸出入業者の共通利益も明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：By the document investigation of archives in Moscow and Petersburg, research leader found the account books of Botkins who were Moscow's largest tea merchant family, was able to know the distribution structure of tea from the 1830s to the 1850s to the concrete. The books and business records related to other tea merchants have little left, but their business was also clear by indirect analytical material, such as taxation, insurance Annals of Moscow city. From the above investigation, research leader revealed that the tea trade workers of the Russian Empire had ethnic and sectarian diversity, such as German, Jewish, Tatar-based merchant not only Russian merchants, and their international nature of trade intermediaries were found. In addition to the common benefit of the factory owners and tea traders from Kakhta tea trade committee record, it was revealed also common interests of importers and exporters in Russian-Qing trade in modern period.

研究分野：ロシア社会経済史

キーワード：茶 商人 帳簿 モスクワ ニジェゴロド 民族 宗派 露清貿易

1. 研究開始当初の背景

研究代表者はこれまでロシアの毛皮貿易史に始まり、ロシア・アメリカ会社史の研究を行ってきたが、その成果から露清貿易の主要品目である茶の重要性を認識した。ロシアにおける茶の需要は主に18世紀に始まり、19世紀に飛躍的に増加した。これはイギリス、アメリカとも共通する現象だが、ロシアはこれら2ヶ国の広東貿易ルートと異なり、陸のキャフタ貿易ルートを成長させた。特にロシア最大の茶の消費地となったモスクワは取引商人が最も多く集中し、流通の結節点となっていたことが知られているが、ロシアの茶商人について日本ではほとんど研究されてこなかった。一方ロシアでは近年、経済的視点だけでなく、社会文化史的視点からロシアの茶貿易史を研究する動きが出てきている。研究代表者はイルクーツク商人史の研究を通じてシベリア商人の貿易構造を明らかにしてきた経緯があり、こうした背景からロシアの茶貿易研究においてはモスクワ商人史の研究が手掛かりになると考えた。

2. 研究の目的

主な研究目的は18-19世紀のキャフタ貿易に従事したロシア商人の流通構造を具体的に明らかにすることである。これについては2010年からロシアの研究者ソコロフによってロシアの茶貿易商人史事典が刊行されており、商人名を知る上で重要な先行研究となっている。これらを主な手掛かりとして主要なモスクワ茶貿易商人の名をリストアップし、モスクワの文書館に所蔵される史料を調査することを当初の目的とした。特に茶商人が残した文書史料を分析し、1850年代に起こった露清貿易の危機とモスクワの茶貿易事業がどのように影響し合っていたのか、陸路の茶貿易ルートと海の茶貿易ルートの取引の特色を明らかにすることを最終的な目標とする。

3. 研究の方法

18世紀のロシア茶貿易に関する史料はほとんどなく、文献資料しか手掛かりがない。しかし19世紀に関しては主に30年代から商人の史料が残されている。当初はモスクワ市立古文書館(TsGA Moskvyy)に所蔵される文書を中心に調査する予定だったが、ここで保管されていた史料は直接的な事業文書よりも財産・課税記録などの間接的史料が中心であった。しかしOPI GIM(国立歴史博物館手稿課)にはモスクワの茶貿易商人、ラシャ工場主・綿工場主として知られるボトキン家のビジネス文書、帳簿など、700ファイル以上もの膨大な史料がほぼ完全な形で保存されていることを発見し、それらを主な材料として調査することとした。

研究代表者は2014年9月末より2015年9月末まで、所属機関である立命館大学文学部から学外研究許可を得て1年間モスクワに滞

在した。この制度を利用し、OPI GIMを含むモスクワの文書館で作業を行った。また2015年4月-7月にペテルブルクの国立歴史文書館(RGIA)などへ調査のため複数回の短期出張を行い、主に茶貿易に関する政府文書を中心に調査を行った。

4. 研究成果

(1)モスクワの歴史博物館手稿課(OPI GIM)では膨大なボトキン文書の中から必要と思われるものをいくつか閲覧できた。そのうち1830年代末から1853年にかけての茶の取引帳簿の複写物を手に入れたのは大きな収穫であった。同帳簿にはボトキン家が取引した茶商人の名と購入・販売した茶の種類・量・額が全て記載されており、これによりモスクワの茶の取引構造がほぼ分かる。この他にもニジニー・ノヴゴロドのタタール人代理商を通じた取引情報なども発見したが、文書館開館日が週3日と限られていること、7-8月が休館日であることなどの制約があり、複写費用の問題から入手できた史料は一部分である。しかし1850年代を中心とする帳簿史料を直接調査できたことで、モスクワ-ニジニ・ノヴゴロド-キャフタの流通ルートにおけるモスクワ商人の茶貿易の特色が見えてきた。取引商人は「ロシア商人」だけではなく、ロシア商人とほぼ同等の権利で貿易を行っていたタタール系商人、ドイツ系商人、ユダヤ系など多様な民族を含んでおり、これについては(2)のモスクワ市の史料によってもいくつかの傍証を得られた。

(2)モスクワ市立古文書館(TsGA Moskvyy)の史料調査では当初想定したような企業家・商会の事業文書をほとんど見つけることができなかった。これはロシア商人が19世紀半ばまでギルド所属の個人商人として活動し、1870年代まで市に登録されるような会社組織(商会)を持つことがなかったためである。しかしモスクワ商人の市勤務に関する史料やギルド税、課税・土地建物資産関連史料、火災保険史料などの間接的資料を部分的に閲覧し、茶貿易商人の個人情報をいくつか収集できた。例えばオデッサで大規模な茶貿易会社を経営したユダヤ系茶商人の商品・資産を示す保険証書・公文書(1890年代から1910年代)は、今後の分析材料として非常に有益なものである。また外国人についてはドイツ系含め宗派があまり問題となっていなかったのに対し、ロシア商人の異端(分離派)やユダヤ教徒についてはしばしばロシア政府の疑惑を招いて査問に召喚されていた事例を発見した。同文書館にもわずかながらボトキン家の帳簿史料があり、モスクワ税関における茶の輸送記録などを発見した。

(3)ペテルブルグではモスクワ-ペテルブルグ間の茶の輸送記録を調査する予定であったが、国立歴史文書館(RGIA)などを調査した結果、そのような記録はほぼ皆無であることが判明した。これは1753年以降の国内

関税廃止に起因し、ペテルブルグがモスクワに次ぐ茶の消費地であったにもかかわらず、流通記録があまり残らなかったためである。そこで当初の方針を転換し、キャフタ貿易に従事するペテルブルク商人、モスクワ商人、シベリア商人から構成されるキャフタ貿易委員会の公式文書記録を調査した。これにより、19世紀の政府刊行物には記録されていない茶貿易に関する様々な問題を調査することができた。特にキャフタ貿易商人の多くがラシャ工場・綿工場を所有する工場主であることを名簿から確認し、露清貿易と綿工業、茶貿易の密接な関係が明確になった。また偽造茶の密売が1830年代に問題化しており、茶商人、政府による撲滅作戦や茶税徴収の実態などについても知ることができた。これらの文書はほとんど複写した。この成果は主に2015年7月30日に東京大学東洋文化研究所で行われた国際シンポジウム“*Linking cloth-clothing globally: 18-20century mapping*”において、*The Russian fur trade and the global market focusing on the Kyakhta trade and European exports in the 19th century* というテーマで行った報告の「ロシア・アメリカ会社」関連データに使用した。

以上3年の研究期間において、モスクワでの学外研究を中心に収集した史料は多いが、刊行出来た成果はまだ一部分のみに留まっている。主な理由は史料整理の問題と、原稿提出後も刊行に時間を要しているものがあること、原稿提出予定が2016年度以降に決まっているものがあるためである。例えば上記の“*Linking cloth-clothing globally: 18-20century mapping*”で報告したペーパーは現在論文集として刊行準備が行われているが、現在予定が延期されている状況である。またモスクワの歴史博物館手稿課(OPI GIM)で入手した史料データについては2016年度中に京都大学の学術雑誌『東洋史研究』に原稿を提出すること、同じく「ロシア史会」2016年度大会においてパネル報告することなどが決定しており、その準備中である。

今後、こうした学会等を通じて本科研の研究成果を刊行する際には、同研究成果であることを明記する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4件)

- ① 森永 貴子「書評：神永英輔著『「北洋」の誕生 場と人と物語』成文社、2015年、278頁』『セーヴェル』32巻、2016年、217-220頁【査読無】
- ② 森永 貴子「書評：塩谷昌史著『ロシア綿業発展の契機—ロシア更紗とアジア商人』『社会経済史学』Vol.81-2、2015年、

138-140頁【査読無】

- ③ 森永 貴子「毛皮事業から見た北東アジアと千島列島」『新しい歴史学のために』286号、2015年、33-47頁【査読無】
- ④ 森永 貴子「近世蝦夷地のロシア人植民者たち—千島列島に見る日本とロシア、辺境と境界の間」『近世史サマーフォーラム 2012 の記録 アジアを歩きかう人々と国家—多様な歴史学の選択—』2013年、15-25頁【査読無】

[学会発表] (計 7件)

- ① Takako MORINAGA, The Russian fur trade and the global market focusing on the Kakheta trade and European exports in the 19th century, “*Linking cloth-clothing globally: 18-20century mapping*”, 2015年7月31日、於：東京大学東洋文化研究所 (東京都文京区)
- ② 森永 貴子「塩谷昌史『ロシア綿業発展の契機』へのコメント」『糸・布・衣の循環史』シリーズ第1回研究会「ロシア更紗とアジア商人」2014年7月26日、於：和光大学ポプリホール鶴川 (東京都町田市)
- ③ 森永 貴子「国際商業拠点としてのサンクトペテルブルクと商人」商館研究会、2014年7月12日、於：東京大学法文2号館 (東京都文京区)
- ④ 森永 貴子「ペテルブルク建設とゴスチンヌイ・ドヴォル」商館研究会、2014年1月12日、於：東京大学東洋文化研究所 (東京都文京区)
- ⑤ 森永 貴子「ロシアの茶貿易と流通—モスクワ商人の視点から—」立命館史学会大会、2013年12月8日、於：立命館大学 (京都市北区)
- ⑥ Takako MORINAGA, Tea drinking culture in Russia, “*What was shared and What was circulated? Towards global history of consumption, secondhand circulations and adaptations*”, 2013年11月23日、於：東京大学東洋文化研究所 (東京都文京区)
- ⑦ 森永 貴子「ペテルブルク建設とゴスチンヌイ・ドヴォル」商館研究会、2013年7月14日、於：東京大学東洋文化研究所 (東京都文京区)

[図書] (計 1件)

- ① 森永 貴子『北太平洋世界とアラスカ毛皮交易—ロシア・アメリカ会社の人びと』東洋書店、2014年5月、63頁

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：

発明者：

権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

森永 貴子 (MORINAGA, Takako)

立命館大学・文学部・准教授

研究者番号：00466434

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：